

会報・案内

平成17年度第2回理事会議事録

日 時：平成17年4月7日(木)11:00~13:30
 場 所：パシフィコ横浜JRS第422会議室
 出 席：遠藤啓吾理事長、池田 恢、大友 邦、石垣武男
 隈崎達夫、久保敦司、松井 修、杉村和朗
 田村正三、中村仁信、西谷 弘、早瀬尚文
 平岡真寛、本田 浩、山田章吾各理事
 伊藤勝陽(監事)、楢林 勇(監事)
 欠 席：宮坂和男理事

議 題：

1. 前回事録の承認
2. 第64回日本医学放射線学会総会について
3. 平成17年日本医学放射線学会総会(代議員会)について
4. 新規学術集会認定申請単位決定について
5. 日本医学放射線学会会誌について
6. 将来計画委員会アンケート報告
7. 消化器内視鏡専門医制度について
8. 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業について
9. 造影剤による死亡事故頻度調査の報告
10. デジタルマンモグラフィに関する緊急勧告
11. その他
12. 会告
 第41回日本医学放射線学会秋季臨床大会案内
 日本医学放射線学会投稿論文の受け付けについて
 新規学術集会認定申請単位について

議 事：

1. 前回事録を承認した。
2. 第64回日本医学放射線学会総会について
 石垣会長より総会の準備万端整ったことが報告された。
3. 平成17年日本医学放射線学会総会(代議員会)について
 代議員会の議事進行および提案事項回答について確認を行った。
4. 新規学術集会認定申請単位決定について
 田村理事より新規学術単位についての報告があり会告に掲載することが了承された。
5. 日本医学放射線学会会誌について
 2006年からの学会誌発行の委託について、候補にあげられている2社のプレゼンテーションが行われ、理事会の方針としてIF取得を目標に検討することが確認された。
6. 将来計画委員会アンケート報告
 早瀬担当理事より新研修制度に関する放射線科の対応に関するアンケートの中間報告がなされた。最終報告は将来計画委員会でまとめ報告の予定。

7. 消化器内視鏡専門医制度について

本田理事より資料に基づき説明がなされた。学会として重要な問題であり、継続審議事項とすることとした。

8. 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業について

田村理事より3月23日に開催された診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業における19学会、内科、外科サブスペシャリティの学会との意見交換会についての報告がなされた。理事会で検討後、日本医学放射線学会としても本事業への参加と協力をを行うことが了承された。

9. 造影剤による死亡事故頻度調査の報告

中村理事より非イオン性ヨード造影剤およびガドリニウム造影剤の重症副作用及び死亡例の頻度調査の結果について報告がなされた。調査報告内容については学会誌に掲載することが了承された。また医療事故防止委員会が中心となって造影剤使用に関するガイドラインを作成することとなった。

10. デジタルマンモグラフィに関する緊急勧告

前回の理事会からの継続審議事項であるデジタルマンモグラフィに関する緊急勧告について再度乳房撮影委員会から提案がなされ理事会で検討後これを了承、会告、ホームページに掲載することが了承された。

11. その他

- ・平成16年度板井研究賞選考について腹部放射線研究会から今岡いづみ君、原留弘樹君の2名推薦が出され理事会で検討後これを了承した。
- ・遠藤理事長が第65回日本医学放射線学会会長に就任するにあたり、理事長を辞退したい旨申し出があり、理事会で審議後これを了承、引き続き17年度の理事長選任について審議を行った結果、大友 邦理事を理事長とすることが提案され、出席理事に諮ったところ、異議なく承認され、平成17年4月8日より理事長を大友 邦とすることが承認された。

12. 会告

- 第41回日本医学放射線学会秋季臨床大会案内
 伊藤大会長より進捗状況の説明がなされた。
 日本医学放射線学会投稿論文の受け付けについて
 久保編集委員長より既に理事会で了承されている件で、来年度から日本医学放射線学会雑誌が英文誌のみになるので和文原稿受け付けを今月5月末で終了、会員へ会告にて案内したい旨提案がなされ了承された。

新規学術集会認定申請単位について

13. その他

AOSRへの日本医学放射線学会としての今後の対応について議論がなされた。

平成17年度第1回放射線防護委員会議事録

芝本雄太, 廣田省三, 本田憲業

日時：平成17年4月8日(金)12:00~13:00
 場所：パシフィコ横浜会議センター317号室
 出席：中村仁信(担当理事, 委員長), 石口恒男(副委員長)
 阿部由直, 岩波 茂, 宇野公一, 大野和子
 岡野友宏, 岡本浩一郎, 竹田 寛, 西澤かな枝
 野坂俊介 各委員
 欠席：日下部きよ子, 草間朋子, 古賀佑彦, 平岡真真
 藤岡睦久 各委員

議 事：

1. ICRP調査研究連絡会の報告

4月6日, ホテルフロラシオン青山で開催された平成17年度第1回報告会について大野委員から説明があった。2005年3月14~18日開催のICRP主委員会の主な内容は以下の通り。

- ・ICRPに新たに第5委員会が設置された。環境, ヒト以外の生物への影響を担当する。
- ・ICRP主勧告は, 委員長の交代により事実上練り直しとなる。
- ・新勧告案でも医療分野の変更はない。
- ・日本の委員は, 主委員会: 佐々木康人(放医研), 第1委員会: 丹羽太寛(京大), 第2委員会: 石樽信人, 第3委員会: 米倉義晴(福井大), 第4委員会: 甲斐倫明(大分看護大), 第5委員会: 土居雅弘(放医研)。

2. 放射線防護委員会の機能拡大について

- ・関連学会等との協力活動を充実するため, 医療放射線防護連絡協議会との連携を強化するとともに, 委員, 専門委員に新メンバーを加える。
- ・一般向けの広報活動として, 日医放ホームページのQ&Aの改訂, パンフレット(PDF版を含めて)作成, 新聞広告などを検討する。
- ・次回防護委員会を2005年5月19日(木)15時から東京で開催する。

3. その他

- ・救急治療室で移動型透視撮影装置(血管撮影装置)を使用することについて, 放射線技術学会から照会があり, 理事長から防護委員会に意見を求められた。管理区域を設定した上で使用すべきであるとの見解で一致した。

平成17年度第1回将来計画委員会議事録

日時：平成17年4月9日(土)12:00~13:00
 場所：パシフィコ横浜会議センター422号室
 出席：早淵尚文委員長, 本田 浩副委員長, 芦澤和人
 油野民雄, 江原 茂, 大川智彦, 蒲田敏文
 桑原康雄, 阪口 浩, 佐藤守男, 菅 一能
 清 哲朗, 高橋元一郎, 竹田 寛, 沼口雄治
 角藤芳久(敬称略)
 欠席：石口恒男, 遠藤真真, 大淵真男, 岡崎正敏

議 事：

1. アンケート調査の結果について

- (1) 新研修医制度に対する放射線科の対応に関するアンケートについて, 早淵委員長より3月末までに届いたアンケートの返事をまとめて報告がなされた(結果の詳細についてはその後に届いた分を併せ, 学会で報告の予定)。これまでのアンケートのまとめについて, 以下のようなさまざまな意見が出された。
- (2) 放射線科医を養成するための研修必修項目が明確になっていないことが問題であり, 日医放として研修カリキュラムを決める必要がある。しかし, あまり高いレベルに設定されてもクリアできない施設が多いのも事実であり, 地域レベルあるいは全国レベルで教育する必要がある。
- (3) 施設間交流についてはすでに実施しているが, 募集をしても応募がないのが現状であり実現は困難と思う。専門医認定に当たって各セクションで実地研修を義務づけた方がよいのではないか。
- (4) 放射線治療について言えば, 密封小線源がない施設ではJASTRO認定医の資格は取れないことになっている。
- (5) 放射線診断学については, 病変を見つけること自体はコンピュータ診断(CAD)でも可能となりつつあり, 放射線診断医に求められるものは何かを見直す必要がある。
- (6) 聖路加国際病院では今年4年目の研修医に対して18カ月間のローテーションカリキュラムを組んだ。今後, 3年目の研修医を全国公募する予定であり, 4年間のローテーションを組みたいと考えている。
- (7) 各大学放射線科の教育カリキュラムをチェックしてみる必要がある。
- (8) アンケート結果を見ると放射線科に回ってくる研修医の数は, 大学病院では1~4名が16施設と最も多く, 大学病院以外では0名が15施設もあった。臨床修練で回ってくる研修医数が増えないと入局者も増えないと思われる。

* アンケート調査結果及び上記の意見をふまえ, 卒後1~2年目(大きな意味では専門医取得まで)の臨床研修医の教育カリキュラムを学会として作製することを提案することとした。その際, 1施設ですべてのセクションをカバーすることは不可能と思われるので, 外の病院や他大学でトレーニングするなど地域レベル・全国レベルで教育するべきとの意見を付記することとした。

2. 理事会からの要望事項として, 「放射線科の専門医は何人くらい必要か?」という問題を当委員会で検討することとなった。アメリカではすでに放射線科医の必要数について一定の見解が出されており, 江原先生に次回そのデータを提出して頂くこととなった。

3. 前回の会議で提案・承認された「治療効果判定機構創設」に關しては, 今後理事会で進めて頂くこととなった。

第436回日本医学放射線学会編集委員会議事録

日 時：2005年4月13日(水)16:00~18:00
 出席：久保敦司理事(委員長), 池田 恢理事, 青木茂樹
 植松 稔, 窪田宜夫, 笹井啓資, 竹原康雄
 細井義夫, 牧田幸三, 蓑原伸一, 道岸隆敏各委員
 欠席：本田 浩理事, 稲田陽一, 井上登美夫
 原田潤太各委員

和文雑誌

投稿と査読状況(2005年1月~4月)の報告
 2005年1月から4月までの投稿数は, 12編であった。また, 査読中の再投稿についての受付締め切り日は, 8月末日とすることを決めた。
 2005年7月号の論文掲載の検討
 総説2編, 投稿論文8編, 特集1編, 地方会記事のほか資料の記事を掲載する。
 投稿受付を5月末日をもって終了することを決め, そのお知らせを4月号に会告として掲載する。
 7月号掲載記事として, 資料2編の掲載を決めた。

Radiation Medicine誌

投稿状況(2005年1月~4月)は, 35編であった。また, 現在の受理論文(掲載待ち)は40編である。また, 投稿論文の査読状況の報告ならびに検討を行ったが, その中で再投稿の期間についての見直しを行い, 現行(3カ月)を1カ月に短縮することとした。ただし投稿者から再投稿が遅延する理由の提示があった場合は, 考慮することを決めた。
 投稿規定については, 細目についての見直しについて, 委員長を中心に検討を進めている。
 International Advisory Boardの推薦
 Radiation Medicine誌のAdvisory Boardとして, 海外のオーソリティならびに若手の研究者を各領域の編集委員より推薦することになった。
 Radiation Medicine誌のImpact Factorの取得対策の一環として, 投稿論文については, 投稿者にRadiation Medicine誌の文献の引用を勧めることとし, そのため関連文献の資料を査読者に添付することになった。

事務局からの連絡

御詫び

会員名簿正誤表

名誉会員のお名前

山口昂一先生のお名前が山口昂一先生になっておりましたので, 御詫びし訂正させていただきます。